

CITY OF YOKOHAMA

データ・デジタル技術を活用した防犯対策の推進

～安心を実感できる・安全を届ける横浜の実現に向けて～

2026年5月14日
市長定例記者会見



横浜市

1 防犯に関する現状

【市の状況】 > 20指定都市の中で**本市における犯罪率は低い**

【社会全体】 > **刑法犯認知件数**は令和4年以降**増加傾向**、犯罪手口も多様化・巧妙化

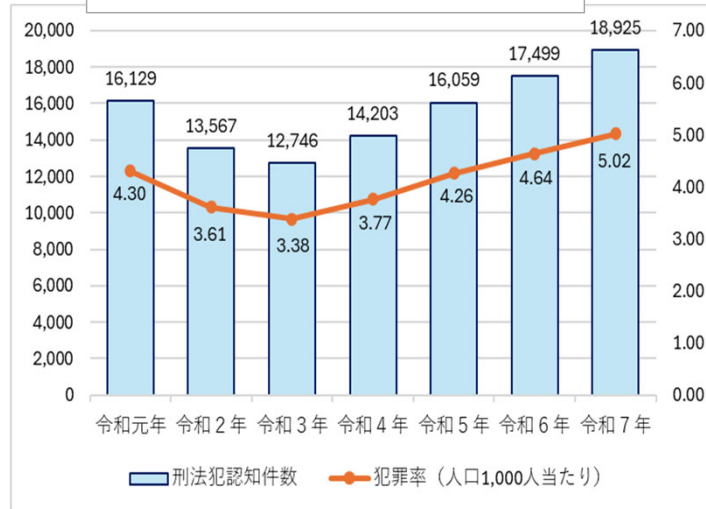
【市民意識】 > 「**夜間の道路**」への**不安**が多い

> **暗がり解消**や**防犯カメラ設置**、こども・高齢者の**見守り支援**等を求める声が多い

本市における犯罪率の20指定都市比較
(犯罪率：刑法犯認知件数/人口×1,000)

	本市 犯罪率	20指定都市内 の順位
令和7年度	5.02	19位
令和6年度	4.64	20位
令和5年度	4.26	20位
令和4年度	3.77	19位
令和3年度	3.38	20位
令和2年度	3.61	20位
令和元年度	4.3	20位

本市における刑法犯認知件数及び犯罪率



令和7年防犯意識アンケート結果 (N=2,558)

防犯上不安を感じる場所

●夜間の道路 (暗い道など) **トップ**
71.7%

強化すべきと思う取組

道路や公園などの暗がり解消	74.4%
防犯カメラの設置	73.4%
防犯不審者情報などの提供	54.1%
子どもや高齢者の見守り支援	47.5%

2 市民の安心・安全を高めるために

データやデジタル技術を活用した防犯対策により
誰もが安心・安全を実感できる横浜を実現

次頁以降
詳細

安心を実感できる
安全を届ける
スマート防犯シティ横浜

3つのビジョンを柱に、
犯罪の未然防止と体感治安の
向上を図ります。

治安の良いまちだと思いますか

66.8%

ビジョン1

DXにより
防犯力が向上
するまち

<主な取組>

- GISマップを活用した「暗がり」の解消
- スマート防犯モデル事業（防犯灯を活用した見守り強化）

ビジョン2

スピード！×
データ活用による
防犯対策を
推進するまち

<主な取組>

- 特殊詐欺等への防犯対策強化
- 防犯情報の迅速・効果的な発信

ビジョン3

誰もが防犯対策
の主役となる
まち

<主な取組>

- 「よこはま安心ボックス」設置支援
- 地域防犯カメラ設置補助
- 「ながら見守り」の促進
- 夜間防犯パトロールの実施

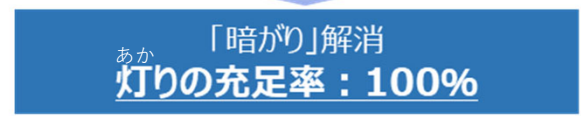
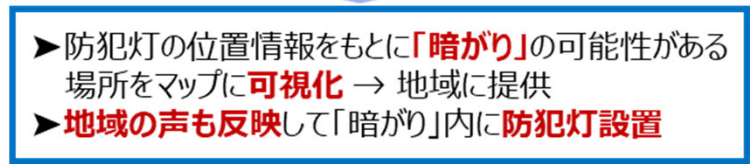
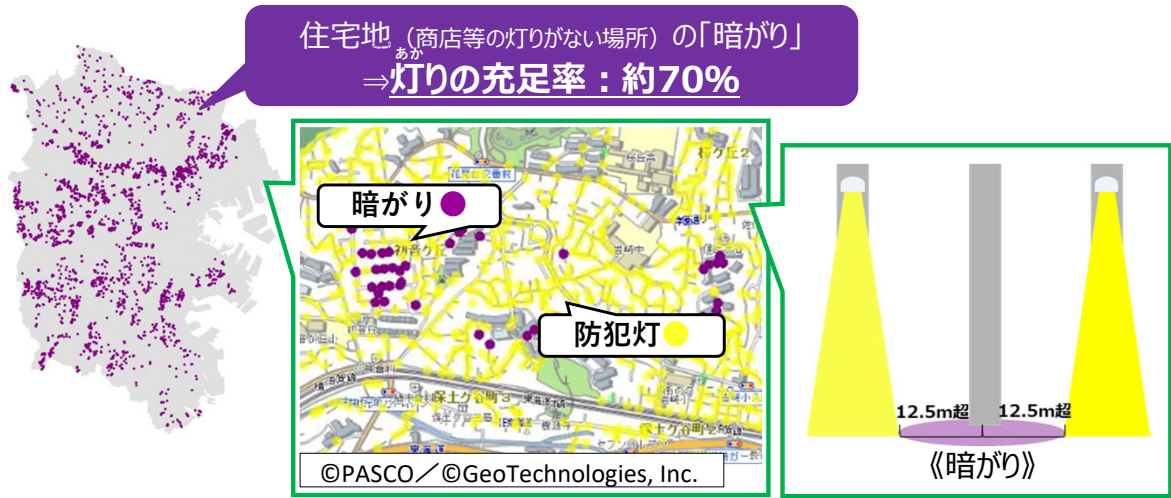
3 ビジョン1:主な取組①

GIS※マップを活用した「暗がり」の解消

<防犯灯対策の経緯>



<8年度からの取組>



※GIS (地理情報システム) : 地図上に位置情報を持つデータを重ね合わせ、コンピュータで管理・分析・可視化する技術

4 ビジョン1:主な取組②

スマート防犯モデル事業（防犯灯を活用した見守り強化）

- ▶ **無線通信機能**が付いた**防犯灯**（500灯/地区）と、小学生等が携帯する**見守りタグ**（300個/地区）を連携させ、保護者のスマートフォンで現在位置や移動経路を確認。防犯灯には**照度自動調整機能**も付け、**安全と省エネ**を両立。
- ▶ 小学校周辺の防犯灯には、**防犯カメラ機能**も追加（5台/地区）

見守り機能・照度自動調整機能



防犯カメラ機能



強化すべきと思う取組

防犯カメラの設置	73.4%
子どもや高齢者の見守り支援	47.5%

モデル実施（見守りシステム・防犯カメラ）

モデル事業前後でのアンケート比較
安心を感じる地域住民の割合向上の検証

市民の安心感向上

防犯灯設置状況や地域特性の違い等を踏まえ
南区及び青葉区からモデル地区（計2地区）を選定

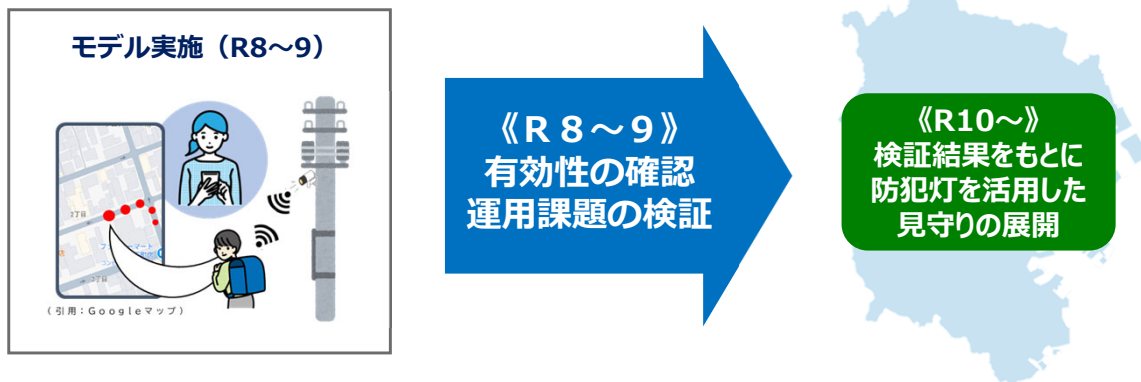
5 今後の展開

GISマップを活用した「暗がり」の解消



《横浜市に対する治安意識》
治安のよいまちだと
「とても思う・思う・
どちらかといえば思う」

スマート防犯モデル事業（防犯灯を活用した見守り強化）



66.8%